

大和魂再生

ニッポンの敵

酒井信彦



◆1◆
さかい・のぶひこ 元東京大学教授。1943年、神奈川県生まれ。70年3月、東大大学院人文科学研究科修士課程修了。同年4月、東大史料編纂所に勤務し、「大日本史料」(11編・10編)の編纂に従事する一方、アジアの民族問題などを中心に研究する。2006年3月、定年退職。現在、明治学院大学非常勤講師や、月刊誌でコラムを執筆する。著書に「唐日偽善に狂う朝日新聞」(日新報道)など。

中国

あと1カ月で2014年になるが、100年前の1914年に世界史上の重大事件である、第1次世界大戦が始まった。この戦争の歴史的意味は、ベルサイユ講和会議において「民族独立の原則」が明確に打ち出されたことである。結果、ドイツ、オーストリア、ロシアの3帝国が滅亡し、中欧・東欧に一挙に8つの独立国が誕生した。

ただし、この時は、アジアやアフリカの植民地支配下の民族が独立するには至らなかった。全世界的な民族独立の課題を果たしたのが、第2次世界大戦であった。アジアやアフリカで数多くの独立国が誕生した。

約500年前から始まった植民地支配体制が崩壊し、大英帝国も大日本帝国も解体して、世界史の画期的な進歩が行われたのである。

一方、中国は、第1次大戦の少し前の辛亥革命によって解体した清帝国を、共産党政権の軍事力によって、強引に再建したものである。これは民族独立の時

異民族を不当に侵略支配 現在も存続する「極悪帝国」

だが、第2次世界大戦後、多数の異民族を支配する、実質的な「帝国」が2つ存在した。ソ連と中華人民共和国である。ソ連はロシア帝国の後身であって、第1次大戦の際、多少領土を減らしたが、第2次大戦ではかえって領土を回復している。

代に、歴史の流れに全く逆行してなされた行動であった。

今から約20年前に、ソ連が民主化とともに15の独立国に解体した。チェコとスロバキアも分離し、ユーゴスラビアは内戦を経て、7つの国家に分かれた。ヨーロッパおよび中央アジアで

そ、中国である。かつてのソ連は「悪の帝国」と呼ばれたが、中国こそ現在も生き延びている「極悪帝国」に他ならない。

現在、ウイグル人の独立運動が盛んだが、ウイグル人の人口は1000万人以上、その領土である、かつての東トルキスタンは、中国の民主化と解体こ

ろ、中国の領土の6分の1、160万平方キロもある。チベット、ウイグル、モンゴルの3民族の土地だけで、中国領土の半分を超える。

東トルキスタンと全く同質な地域である、カザフスタンやウズベキスタンなど西トルキスタンの民族は、ソ連の崩壊によって完全に独立した。

中国の民主化と解体を、わが日本こそが告発・糾弾して、歴史の正義を堂々と主張すべきである。

真正正銘の侵略国家である中国の犯罪を、わが日本こそが告発・糾弾して、歴史の正義を堂々と主張すべきである。



連行された家族の解放を求め、治安部隊ともみ合うウイグル族の女性。新疆ウイグル自治区

に、中国は「日本は過去に止まらず、現実においても釣魚島(尖閣諸島の中国名)を侵略している」などと批判し、尖閣を含む東シナ海に一方的な防空識別圏を設定するなど、軍事的な挑発を仕掛けてきている。

その、現在の世界が実現しなければならぬ、最重要の課題である。

民主化と解体が世界の課題